

# 第1回 U-12 九州小学生ハンドボール大会（福岡県開催） 審判部連絡

## 1. 大会審判員の構成

■福岡県、長崎県、熊本県審判員で構成

## 2. 競技規則

本大会は、令和6年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」および「Jクイックハンドボール競技規則」によって行います。

- (1) 参加小学生が日頃の練習の成果を十分発揮できるよう、また、小学生目線に立ったレフェリングを目標とします。
- (2) レフェリングにおけるキーワード→「安心・安全」  
小学生カテゴリーのレフェリングにおいては、教育的配慮のもと判定を行います。  
→予防的声掛けを行います。

但し、

- ① ボールを対象としないプレー（横、後ろからの接触）については、段階的罰則（イエローカード）の適応となります。
- ② 高速で走っている、ジャンプしている選手への接触、視野外からの予期せぬ危険な接触については、「即座に2分間退場」、プレーの質によっては「レッドカード」の適応となることもあります。

## 3. 2022年からの新競技規則の係る運用について（確認）

(1) GKの頭部直撃 → シューターへの2分間退場

- ① GKと1対1の状況でのみ罰則の適応となります。GK体が動いていたか止まっていたかが問題ではなく、GKの通常の防御動作で頭部にボールが直撃すれば罰則が適応されます。ラインクロス、オーバーステップなどで、ボールの所持が変わる判定後のシュートであっても罰則の適応となります。

※但し、DFの接触により7mスローの判定となったシュートが頭部に直撃した場合の再開方法は、7mスローとなります。

- ②このカテゴリーでは発生しないと考えますが、明らかにレフェリーの判定を欺くためにGKが演技を行った場合はGKへの罰則の適応となります。
- ※再開方法は攻撃側のフリースローで再開となります。

## (2) パッシブプレーの予告合図の最大回数(4回)

→レフェリーが攻撃側、防御側にわかりやすくカウントします

- ①インフォメーションは、わかりやすいタイミングで「手をあげます」
- ②予告合図後のインフォメーションは「次〇回目のパス」、で統一します

※最大4回のパスの後、攻撃チームがシュートをしなかった場合、つまり5回目のパスを味方のプレーヤーがキャッチした場合となります

## (3) オーバーリアクション等について

このカテゴリーでは発生しないと考えますが、レフェリーの判定を欺くために演技を行った場合は罰則(明らかなもの)の適応となります。

→予防的声掛けを行います。

## 4. その他

- ① ユニフォームや身に着ける装具については、「競技上の注意と確認事項」を参照下さい。
- ② チームとの良好なコミュニケーションの実施。
- 質問に対しては真摯に対応します。クレーム、暴言等については適切に対応します。
- ③ 防寒対策、ケガの予防など、各チーム十分気を付けて下さい。

最後に、参加全チームの健闘を祈念するとともに、記念すべき第一回大会が安心安全のもと、素晴らしい大会となるよう、よろしくお願い申し上げます。

九州ハンドボール協会 審判長 鶴田 祐一郎

福岡県ハンドボール協会 審判長 川端 祐貴

U-12 九州小学生ハンドボール大会審判員一同